

シート調整	3-2
フロントシート	3-2
リヤシート	3-4
ヘッドレスト	3-5
フラットシートの作り方	3-6
シートベルト	3-7
前席プリテンショナー／ 前席ロードリミッター付シートベルト	3-10
チャイルドシート	3-12
SRS エアバッグ	3-19

シート調整

J00500200436

シート各部の調整は走行前に行ってください。

⚠️警告

- シートの調整は必ず走行前に行ってください。走行中にシートを調整すると必要以上に動くことがあります、重大な事故につながるおそれがあります。
- シートの調整をした後は、シートが確実に固定されていることを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き、重大な事故につながるおそれがあります。
- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体がシートベルトの下にもぐり、重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠️注意

- シートを操作しているときは、シートの下や動いている部分に手足を近づけないでください。はざまれてけがをするおそれがあります。

フロントシート

J00500300714

正しい運転姿勢がとれるように、つぎの点に注意してシートを調整してください。



AAE000089

⚠️注意

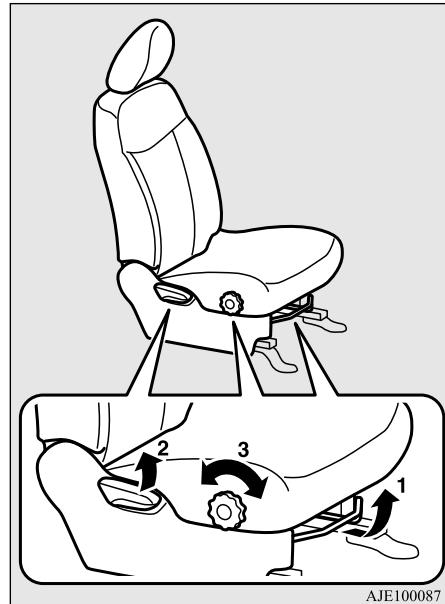
- シートの調整は必ず大人が行ってください。お子さまが操作すると思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- 背もたれを調整するときは、背もたれに身体を添わせるか、手を添えて行ってください。背もたれが急に戻り顔などにあたるおそれがあります。

⚠️警告

- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

調整のしかた

J00514701048



1- 前後位置調整

レバーを引き上げたまま調整します。

2- 背もたれの角度調整

レバーを引き上げたまま調整します。

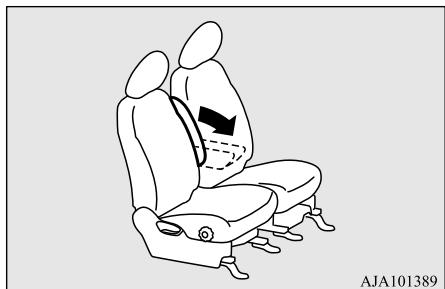
3- 高さ調整（運転席） タイプ別装備

ダイヤルを回して調整します。

アームレスト（ひじ掛け）

J00501001441

手前に倒して使用します。
元に戻すときは、後ろに引き上げます。



アドバイス

- アームレストの上に乗ったり座ったりしないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

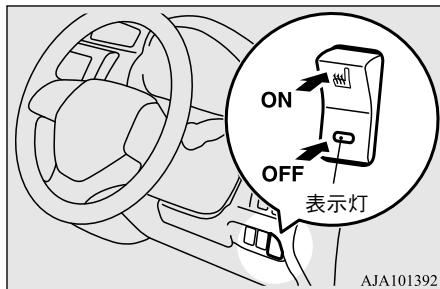
ヒーター付シート（運転席）

タイプ別装備

J00501301486

エンジンスイッチまたは電源モードが ON のときにスイッチの上側を押すとヒーターが作動し、スイッチ内の表示灯が点灯します。

ヒーターを切りたいときはスイッチの下側を押します。



△注意

- エンジン停止状態での連続使用はバッテリー上がりの原因になります。
- 長時間の連続使用は低温やけど（水ぶくれなど）の原因になります。特にぎのうな方は注意してください。
- お年寄、病気の方、身体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- ねむけをさそうかせ薬などを飲んだ方
- 重い荷物をシートの上に置いたり、針やくぎなどをシートに刺したりしないでください。
- 毛布や座ぶとんなど保温性のよいものをシートにかけないでください。過熱の原因となります。

⚠ 注意

- シートを手入れするとき、エンジン、ガソリン、およびアルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。シート表面およびヒーターの損傷の原因となります。
- 水、ジュースなどをこぼしたときは十分乾かしてから使用してください。

📖 アドバイス

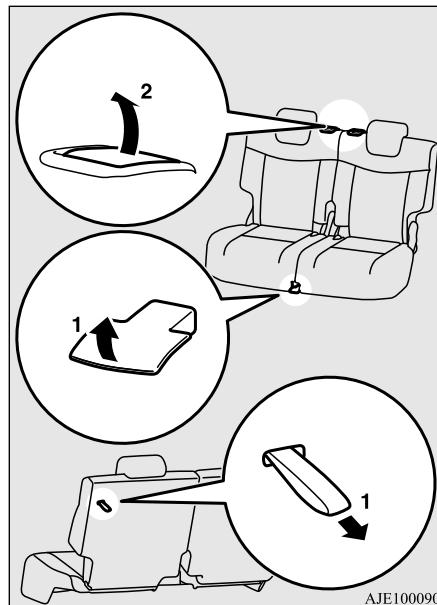
- ご使用にならないときはスイッチを OFF にしてください。

リヤシート

J00501400015

調整のしかた

J00515100055



1- 前後位置調整

レバーを引き上げたまま、またはストラップを引いたまま調整します。

2- 背もたれの角度調整

レバーを引き上げたまま調整します。

背もたれの前倒し

J00501701422

背もたれを倒すことにより、大きな荷物を積むことができます。

⚠ 警告

- 背もたれを前倒しした状態で人を乗せたり、お子さまを遊ばせないでください。急ブレーキをかけたときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。

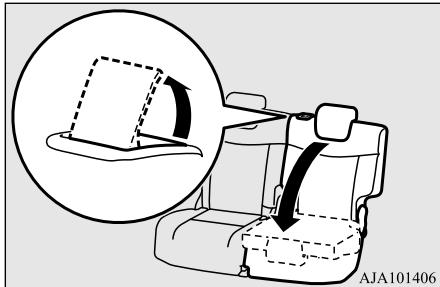
⚠ 注意

- 室内にはシートの高さ以上に荷物を積まないでください。また荷物は確実に固定してください。
後方の確認ができなくなったり、急ブレーキをかけたときなどに荷物が前方に飛び出して思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

倒すときは

1. ヘッドレストを下げます。

2. レバーを引いたまま、背もたれを前に倒します。



戻すときは

背もたれを確実にロックするまで起こします。
元に戻した後は、背もたれが確実に固定されていることを確認します。

ヘッドレスト

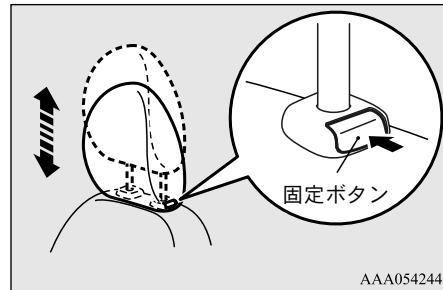
J00503401784

△警告

- ヘッドレストは走行前に必ず取り付けてください。
ヘッドレストを取り外したままで走行すると、万一、衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。

△警告

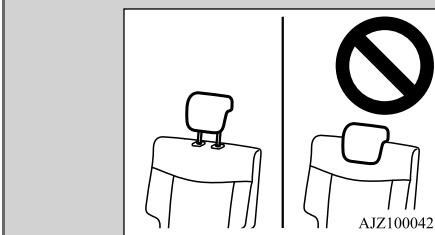
- ヘッドレストの効果を十分に発揮させるため、つぎのことをお守りください。
 - ・ヘッドレストを正しい位置に調整する。
 - ・背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
- リヤシートに座る場合は、ヘッドレストを下げた状態で走行しないでください。衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。走行前に必ずヘッドレストを固定できる高さまで引き上げてください。



取り外すときは

J00508900107

固定ボタンを押したまま、いっぱいに引き上げて取り外します。



上下調整

J00532400138

ヘッドレストの中央部ができるだけ耳の高さになるように調整します。
耳の高さに届かない場合（特に背の高い人など）は、固定できる範囲で一番高い位置に調整してください。
上げるときはそのまま引き上げ、下げるときは固定ボタンを押しながら下げます。

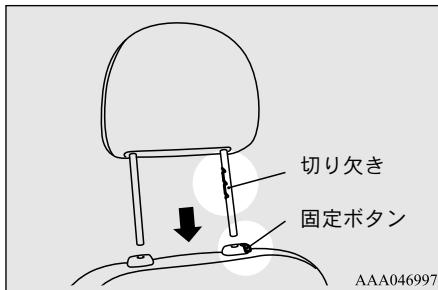
取り付けるときは

J00509001434

切り欠きのあるヘッドレストステーが固定ボタン側になるように、固定ボタンを押しながら差し込みます。

フラットシートの作り方

3

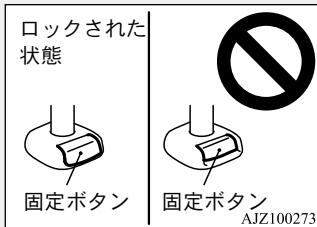


△警告

- フラットにした状態で人を乗せて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害を受けたり、荷物が飛び出して重大な事故につながるおそれがあります。

△注意

- 前後の向きを間違えて取り付けると、ヘッドレストは固定できません。
- ヘッドレストを取り付けた後、固定ボタンがロックされていることを確認してください。



△注意

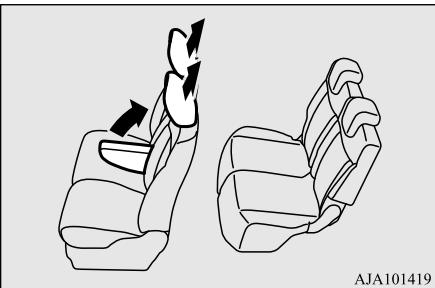
- フラットにするときは、必ず車を安全な場所に止めてから行ってください。
- フラットにする操作は必ず大人が行ってください。
お子さまが操作すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- フラットにしたときは、シートの上を歩き回らないでください。シートから足を踏み外すと危険です。必ずシートの中央を踏んで、ゆっくり移動してください。

アドバイス

- フラットにしたときは、背もたれ上部に飛び乗ったり、強い衝撃を与えないでください。シートが損傷することがあります。

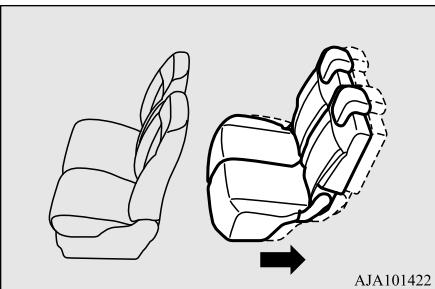
1. フロントシートのヘッドレストを取り外し、アームレストを起こします。
→「ヘッドレスト：取り外すときは」 P.3-5

→「アームレスト」 P.3-3



2. リヤシートを後方へいっぱいまで移動させます。

→「調整のしかた」 P.3-4

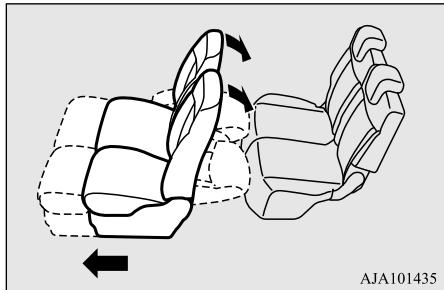


フラットシートの作り方

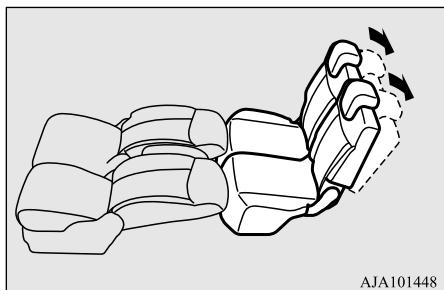
J00504501607

シートを倒して大きな空間を作ることができます。

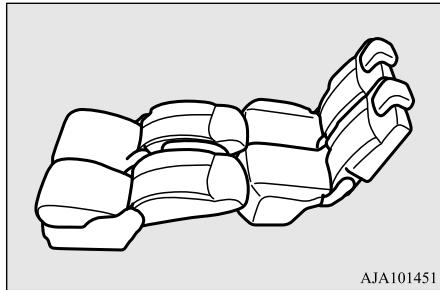
3. フロントシートを前方へいっぽいまで移動させ、背もたれを倒します。
→「前後調整」P.3-3



4. リヤシートの背もたれを倒します。
→「調整のしかた」P.3-4



5. これでフラットシートの完成です。
戻すときは逆の手順で行います。



シートベルト

J00505101697

シートベルトは万一の場合、運転者と同乗者の安全を守ります。シートベルトはつぎの使用方法、注意を守り、運転する前に必ず着用してください。



⚠警告

- 車に乗るときは必ず全員がシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、車外に投げ出されたりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠警告

- 肩部ベルトは脇の下を通さないで、肩に十分かかるように着用してください。ベルトが肩に十分かかっていないと衝突したときなどに身体が前方に投げ出され、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 腰部ベルトは腹部にかけないでください。衝突したときなどに腹部などに強い圧迫を受け、シートベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ベルトは1人用です。2人以上で使用しないでください。衝突のときなどにベルトが正常に動かず、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体がシートベルトの下にもぐり、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰かけた状態で着用してください。正しい姿勢で着用しないと十分な効果を発揮しないおそれがあります。正しい姿勢については「フロントシート」を参照してください。→P.3-2
- シートベルトはねじれのないように着用してください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、衝突したときなどに局部的に強い力を受けてシートベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠警告

- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上に近づいて運転しないでください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮しないおそれがあります。
- お子さまでもシートベルトを必ず着用させてください。ひざの上でお子さまを抱いていても、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトは、大人の体格に合わせて設計されています。シートベルトを着けたとき肩部のベルトが首、あご、顔などに当たる場合や、腰部ベルトが腰骨にかかるないような小さなお子さまは通常のシートベルトでは衝突のとき強い圧迫を受け、シートベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。体格に合ったチャイルドシートを使用してください。→「チャイルドシート」P.3-12
- 妊娠中の女性や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用してください。ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので、医師にご相談のうえ注意事項を確認してからご使用ください。
妊娠の中の方は、腰部ベルトを腹部を避けて腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩部ベルトは確実に肩を通し、腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。

⚠警告

- シートベルトを着用する場合は洗たくばさみやクリップなどでベルトにたるみをつけないでください。ベルトにたるみがあると十分な効果を発揮しないおそれがあります。
- ほつれや切り傷ができたり、金具部などが正常に動かなくなったときは、シートベルトを交換してください。異常がある状態で使用すると衝突時に正常に動かず、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- 万一、事故にあって、シートベルトに強い衝撃を受けた場合は、外観に異常がなくても必ず交換してください。軽い事故の場合も販売会社で点検を受けてください。ベルト自体が壊れている場合があり、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- シートベルトを修理または交換する場合は販売会社へご相談ください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。またシートベルトの改造や取り付け、取り外しをしないでください。衝突したときなどに十分な効果を発揮できないおそれがあります。
- ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を使用してください。ベンジンやガソリンなどの有機溶剤の使用や漂白、染色は絶対にしないでください。
シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できなくなるおそれがあります。

ELR (緊急固定) 付 3 点式シートベルト

J00505201337

ベルトの長さを調整する必要はありません。ベルトは身体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃を受けたときは、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

アドバイス

- ベルトをすばやく引き出すことにより、ベルトがロックするか確認できます。

着用するときは

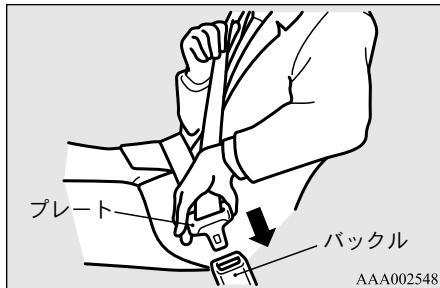
J00507800170

1. プレートを持ってシートベルトをゆっくりと引き出します。

アドバイス

- シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。

2. ベルトがねじれていなか確認した後、プレートをバックルにカチッと音がするまではめ込みます。



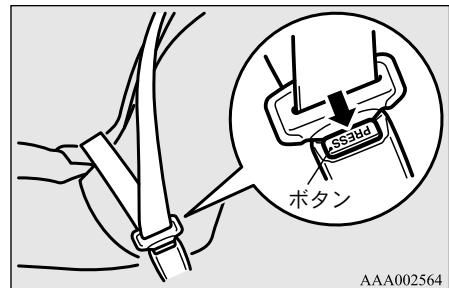
3. 腰部ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかけ、ベルトを引いて腰部に密着させます。



外すときは

J00507900344

プレートを持ってバックルのボタンを押します。ベルトは自動的に巻き取られますので、プレートに手を添えて、ゆっくり戻してください。



警告

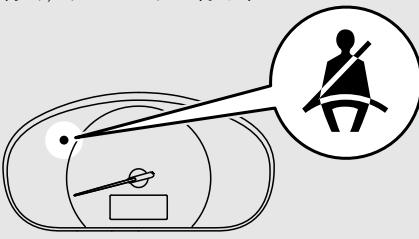
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
ベルトを身体に巻き付けたりして遊んでいると、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 万一、シートベルトが外せなくなったらときは、はさみなどでベルトを切断してください。

前席プリテンショナー／前席ロードリミッター付シートベルト

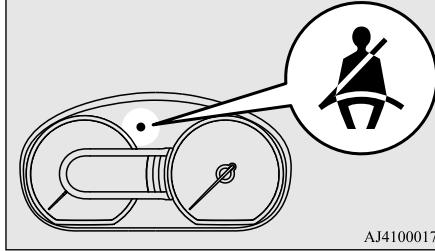
シートベルト非着用時警告灯

J00514801065

3 除く、タコメーター付き車



タコメーター付き車



AJ4100017

運転席または助手席のシートベルトを着用しないままエンジンスイッチまたは電源モードを ON にすると、警告灯が点灯し、約 6 秒間ブザーが鳴ってシートベルトの着用を促します。

シートベルトを着用せずにそのまま走行すると（約 8km/h 以上）、約 90 秒間警告

灯の点滅とブザーでシートベルトの着用を促します。

警告灯の点滅とブザーでの警告は、シートベルトを装着するまで繰り返します。

アドバイス

- 助手席用の警告は、助手席に組み込まれた乗員検知センサーが助手席に掛かる重量を検知したときに作動します。助手席に荷物などを置くと、センサーが重量を検知して、警報が作動することがあります。

ベルトが首、顔に当たるときは (前席上下調整式シートベルト アンカー)

J00514901040

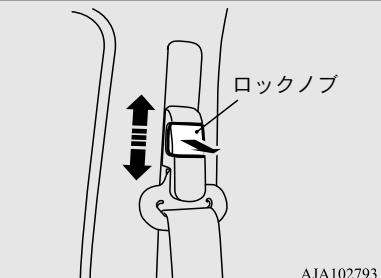
フロントシート

肩部ベルトの高さを調整することができます。

ベルトが首、顔に当たったり、肩から外れて腕にかかってしまうときに調整してください。

調整するときは、ロックノブを引いたままアンカーを上下に動かします。

調整後はアンカーが固定されていることを確認します。



AJA102793

警告

- アンカーを調整するときは、肩部ベルトが首に当たらず、肩の中央に十分かかるように調整してください。また、調整後はアンカーが確実に固定されていることを確認してください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮できず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

前席プリテンショナー／前席ロードリミッター付シートベルト

J00505702124

前席プリテンショナーシートベルトは、運転席および助手席に装備されています。

前席プリテンショナー

J00512801133

前席プリテンショナーは、エンジンスイッチまたは電源モードがONのときに運転者または助手席同乗者に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方より受けたときに、シートベルトを瞬時に引き込み、シートベルトの効果をいっそう高める装置です。

△警告

- 前席プリテンショナーシートベルトの効果を十分に発揮させるため、つぎのことをお守りください。
 - ・シートを正しい位置に調整してください。
→「フロントシート」P.3-2
 - ・シートベルトを正しく着用してください。
→「シートベルト」P.3-7
- 前席プリテンショナーシートベルトやフロアコンソール付近の修理、カーオーディオなどの取り付けをする場合は前席プリテンショナーに影響をおよぼすおそれがありますので、販売会社にご相談ください。

△注意

- 廃車するときは販売会社へご相談ください。前席プリテンショナーシートベルトが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

アドバイス

- 前席プリテンショナーシートベルトはシートベルトを装着していないくとも、前方からの強い衝撃を受けると作動します。
- 前席プリテンショナーシートベルトは一度作動すると再使用できません。
販売会社で運転席、助手席側を同時に交換してください。

前席ロードリミッター機構

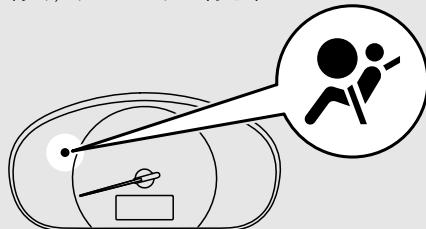
J0051010101073

衝突時に、シートベルトにかかる荷重を効果的に吸収し、乗員への衝撃をやわらげる装置です。

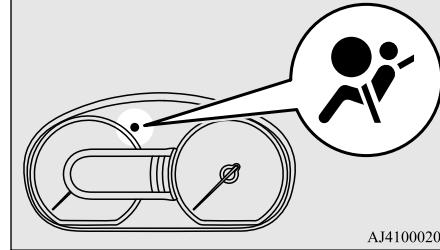
SRS エアバッグ／前席プリテンショナー警告灯

J00510001418

除く、タコメーター付き車



タコメーター付き車



AJ4100020

正常なときは、エンジンスイッチまたは電源モードをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。

SRS エアバッグまたは前席プリテンショナーに異常があるときは、点灯します。

⚠️警告

- 警告灯がエンジンスイッチまたは電源モードをONにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故のときにSRSエアバッグや前席プリテンショナーシートベルトが正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。
ただちに販売会社で点検を受けてください。

チャイルドシート

J00506001084

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。

チャイルドシートには主に乳児用（ベビーシート）、幼児用（チャイルドシート）、学童用（ジュニアシート）の3種類があります。車の仕様やお子さまの体格に合わせて適切なチャイルドシートをお選びください。

取り付け方法はチャイルドシートに添付の取扱説明書にしたがってください。

⚠️警告

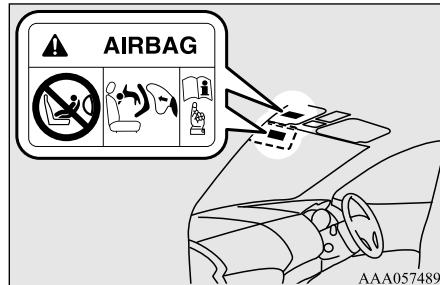
- 6才未満のお子さまはチャイルドシートの使用が法律で義務付けられています。
- チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

⚠️注意

- チャイルドシートをリヤシートに取り付ける場合は、チャイルドシートとフロントシートが干渉しないようにフロントシートの位置を調整してください。
- 後方ヘシートを移動したり背もたれを倒すときは、チャイルドシートに座ったお子さまに十分注意してください。
お子さまがシートとチャイルドシートの間にはさまれるおそれがあります。

助手席へのチャイルドシート取り付け時の注意

J00515001035



⚠️警告

- 助手席に後ろ向き装着のチャイルドシートは絶対に取り付けないでください。
また、前後向きとも装着可能なチャイルドシートでも後ろ向きには絶対に取り付けないでください。
助手席 SRS エアバッグが膨らむとき、強い力が後ろ向きチャイルドシートの上部にかかり、背もたれに押しつけられてお子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。



- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席を一番後ろの位置にし、前向き装着のチャイルドシートを取り付けてください。

ISO FIX 対応 * チャイルドシート

J00506101782

チャイルドシート固定専用バーおよびテザーアンカーが装備された座席専用のチャイルドシートです。専用バーおよびアンカーを使用してチャイルドシートを固定します。車両のシートベルトでチャイルドシートを固定する必要はありません。

* この車は 2006 年 10 月 1 日施行の保安基準に適合した ISO FIX 対応チャイルドシート固定専用バーおよびテザーアンカーを標準装備しています。

3

シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表(ISO FIX対応チャイルドシート固定専用バーおよび テザーアンカーでの取り付け)

下の表から、チャイルドシートを選択してください。

質量グループ (おさまの体重)		サイズ等級	固定具	車両 ISO FIX 位置	
				リヤシート左右席	
0	10 kgまで	F	ISO/L1	X	
		G	ISO/L2	X	
0+	13 kgまで	E	ISO/R1	X	
I	9 ~ 18 kg	E	ISO/R1	IL	
		D	ISO/R2	X	
		C	ISO/R3	X	
		D	ISO/R2	X	
		C	ISO/R3	X	
		B	ISO/F2	IUF	
		B1	ISO/F2X	IUF	
		A	ISO/F3	IUF	

チャイルドシート

3

質量グループ (お子さまの体重)	サイズ等級	固定具	車両 ISO FIX 位置
			リヤシート左右席
II	15 ~ 25 kg		X
III	22 ~ 36 kg		X

サイズ等級の説明

サイズ等級	固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状, 大きさ
A	ISO/F3	幼児	前	全高
B	ISO/F2	幼児	前	低型
B1	ISO/F2X	幼児	前	低型
C	ISO/R3	幼児	後ろ	大型
D	ISO/R2	幼児	後ろ	小型
E	ISO/R1	乳児	後ろ	—
F	ISO/L1	乳児	左	キャリコット
G	ISO/L2	乳児	右	キャリコット

⚠ 注意

- チャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取り外してください。

記号の説明

- IUF: 国連の安全基準 UN-R44 に適合している汎用型 (ユニバーサル) ISO FIX 対応の前向きチャイルドシートのみが取り付け可能です。
- IL: 以下のリストに示す純正チャイルドシートの取り付けが可能です。
- X: チャイルドシートを取り付けることはできません。

純正チャイルドシート

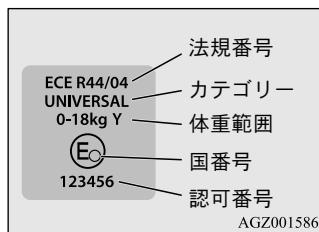
ご購入、ご使用に関しては販売会社へご相談ください。

記号	純正部品番号	UN-R44 認可番号
IL	H8000-79923 (チャイルドシート本体) H8000-79924 (ベースシート)	E4-04443717

3

アドバイス

- UN-R44 に適合したチャイルドシートには、つぎの認可マークが表示されています。



除く、ISO FIX 対応チャイルドシート

J00506201972

車両のシートベルトを使用して固定するチャイルドシートです。

シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表（シートベルト使用による取り付け）

以下の表から、装着位置に応じてチャイルドシートを選択してください。

チャイルドシート

3

質量グループ (お子さまの体重)		助手席	リヤシート 左右席
0	10 kgまで	X	U
0+	13 kgまで	X	U
I	9 ~ 18 kg	UF	U
II	15 ~ 25 kg	UF	U
III	22 ~ 36 kg	UF	U

前向きチャイルドシートを助手席に取り付ける場合は、助手席を後方へ移動してください。

⚠ 注意

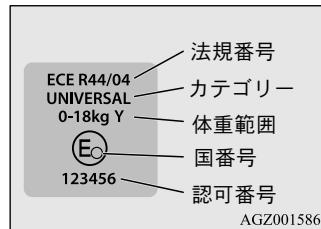
- チャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取り外してください。

記号の説明

- U: 国連の安全基準 UN-R44 に適合している汎用型（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートのみが取り付け可能です。
- UF: 国連の安全基準 UN-R44 に適合している汎用型（ユニバーサル）カテゴリーの前向きチャイルドシートのみが取り付け可能です。
- X: チャイルドシートを取り付けることはできません。

 アドバイス

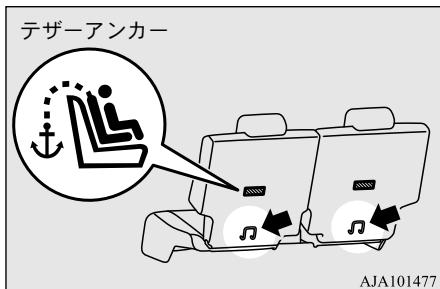
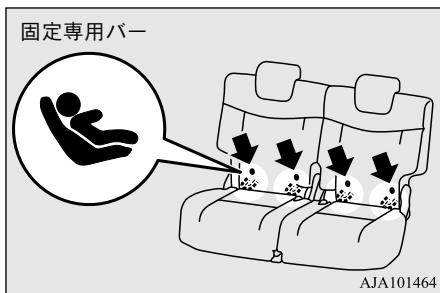
- UN-R44 に適合したチャイルドシートには、つぎの認可マークが表示されています。



ISO FIX対応チャイルドシート 固定専用バーおよびテザーアンカーでの取り付け方

J00506301944

固定専用バーはリヤシートクッションと背もたれの間に、テザーアンカーは背もたれの背面に、それぞれ装備されています。



△警告

- 固定専用バーおよびテザーアンカーはチャイルドシートを固定するために装備されています。その他の装備品の固定には使用しないでください。

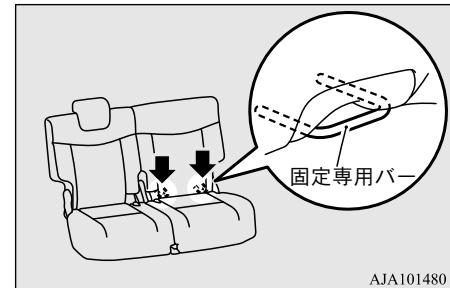
取り付けるときは

チャイルドシートに添付の取扱説明書にしたがって、チャイルドシートを取り付けます。

△警告

- チャイルドシートを取り付けるときは、固定専用バーおよびテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物があるとチャイルドシートが固定されず、衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシートが取り付けられているときは、シートの調整はしないでください。

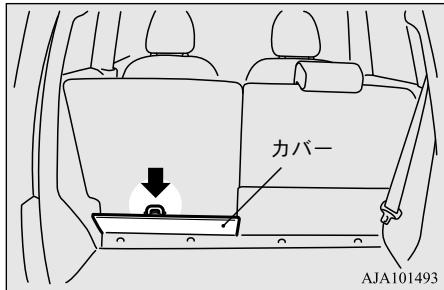
2. リヤシートクッションと背もたれのすきまを手で少し広げて、固定専用バーの位置を確認します。



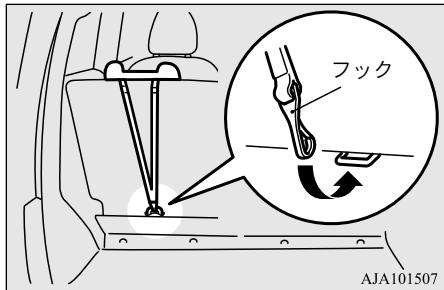
3. チャイルドシートを固定専用バーに取り付けます。

トップテザー付きチャイルドシートの場合は、手順4から6を行ってください。
トップテザーが無いチャイルドシートの場合は、手順6を行ってください。

4. 背もたれの背面にあるカバーをめくり、テザーアンカーの位置を確認します。



5. テザーベルトのフックをテザーアンカーに掛け、テザーベルトを締めて確実に固定します。



6. チャイルドシートを前後左右にゆすり、確実に固定されたことを確認します。

シートベルトでの取り付け方

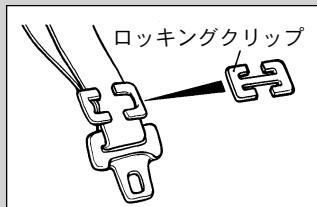
J00506502129

つぎの手順で確実に取り付けてください。

1. チャイルドシートを取り付けたい席に置き、ヘッドレストを取り外します。
→「ヘッドレスト：取り外すときは」P.3-5
2. チャイルドシートに添付の取扱説明書にしたがって、チャイルドシートをシートベルトで固定します。

⚠️ 警告

- チャイルドシートの種類によって取り付け方法が異なります。
必ずチャイルドシートの取扱説明書にしたがって正しく取り付けてください。
チャイルドシートによってはチャイルドシートに付属のロッキングクリップでの固定が必要です。



3. 固定後は、チャイルドシートを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認してください。

SRS エアバッグ

J00506602234

エンジンスイッチまたは電源モードがONのとき、運転者または助手席同乗者に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときに膨らみ、シートベルトの働きを補って、運転者または助手席同乗者の頭部や胸部への衝撃をやわらげる装置です。

SRSとはSupplemental Restraint Systemの略語で補助拘束装置の意味です。

⚠️ 警告

- SRS エアバッグはシートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。
シートベルトをしていないと急ブレーキなどで身体が前方へ放り出されることがあります。その際にSRS エアバッグが膨らむとその強い衝撃で死亡、または重大な傷害を受けることがあります。シートベルトはつぎの理由により必ず着用してください。
- SRS エアバッグが膨らんだとき、シートベルトがあなたの身体を正しい位置に保ちます。

⚠️警告

- SRS エアバッグが作動しないときでも、シートベルトによりけがを軽減することができます。
- シートは正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。SRS エアバッグは非常に強い力で膨らむため、SRS エアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車しているとSRS エアバッグにより死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。
- SRS エアバッグ構成部品およびその周辺は膨らんだ後、高温になりますのでさわらないでください。やけどをするおそれがあります。

⚠️警告

- SRS エアバッグが収納されている部分に傷がついていたり、ひび割れがあるときは販売会社で点検を受けてください。衝突したときなどにSRS エアバッグが正常に作動せず死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。



💡アドバイス

- 膨らんだSRSエアバッグはすぐにしほるので視界を妨げません。
- SRS エアバッグは一度膨らむと再使用できません。販売会社でSRS エアバッグ構成部品を交換してください。
- 衝撃や助手席 SRS エアバッグが膨らむことにより、前面ガラスが破損する場合があります。

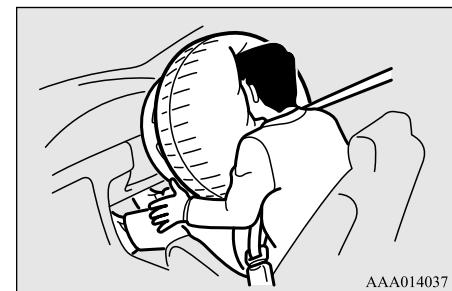
運転席 SRS エアバッグシステム

J00506701687

運転席 SRS エアバッグはハンドルの中に装備されています。

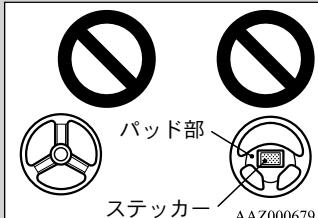
💡アドバイス

- SRS エアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRS エアバッグとの接触によりすり傷や打撲などを受けることがあります。
- SRS エアバッグが膨らむときかなり大きな音がし、白煙が出ますが火災ではありません。また人体への影響もありません。ただし、呼吸器系の疾患がある人や皮膚が弱い人の場合、一時的にのどや皮膚に刺激を感じことがあります。また、残留物（カスなど）が目や皮膚など身体に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。

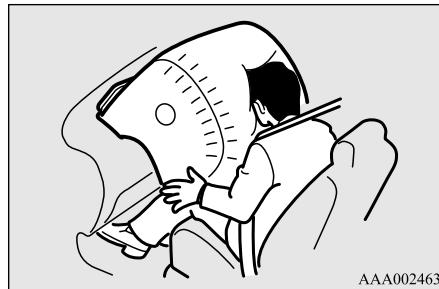


⚠️ 警告

- ハンドルの交換や、パッド部にステッカーを貼ったり、カバーを付けることはしないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなかったり、誤って作動し、重大な傷害を受けるおそれがあります。



- ハンドルに顔や胸を近づけた姿勢で運転しないでください。
SRS エアバッグが膨らむ際、SRS エアバッグにより死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。



⚠️ 警告

- お子さまを乗せるときには、リヤシートに座らせて必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、チャイルドシートをリヤシートに取り付けてお乗せください。正しい姿勢でシートに座っていないと、SRS エアバッグが膨らむときの強い衝撃でお子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。
→「チャイルドシート」P.3-12

⚠️ 警告

- インストルメントパネルの上に物を置いたり、前面ガラスやルームミラーにアクセサリーなどを取り付けたりしないでください。SRS エアバッグが膨らむときにこれらの物が飛んで重大な傷害を受けるおそれがあります。
また、インストルメントパネルの上にステッカーを貼ったりしないでください。SRS エアバッグが正常に膨らむのを妨げるおそれがあります。



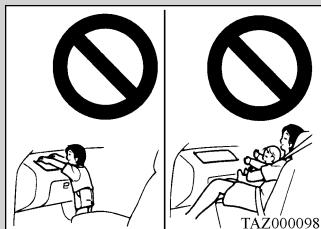
助手席 SRS エアバッグシステム

J00506802265

助手席 SRS エアバッグはグローブボックス上のインストルメントパネルの中に装備されています。
助手席 SRS エアバッグは同乗者がいなくとも運転席 SRS エアバッグと同時に作動します。

⚠️警告

- 助手席同乗者はインストルメントパネルに手や足を乗せたり、シートの前端に座って顔や胸を近づけた姿勢で座らないでください。また、お子さまをインストルメントパネルの前に立らせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。SRS エアバッグが膨らむ際、SRS エアバッグにより死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

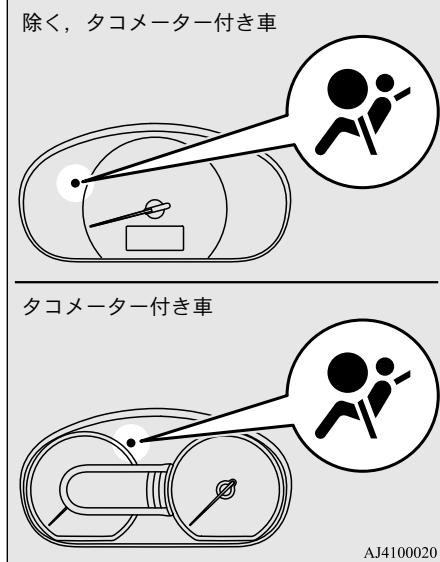


⚠️警告

- 助手席同乗者は、かばんなどの荷物をひざの上にかかえるなど、SRS エアバッグとの間に物を置いたりしないでください。SRS エアバッグが膨らむ際に物が飛ばされ重大な傷害を受けるおそれがあります。

SRS エアバッグ／前席プリテンショナー警告灯

J00507302094



正常なときは、エンジンスイッチまたは電源モードを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。

SRS エアバッグまたは前席プリテンショナーに異常があるときは、点灯します。

⚠️警告

- 警告灯がエンジンスイッチまたは電源モードを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故のときにSRS エアバッグや前席プリテンショナーシートベルトが正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

ただちに販売会社で点検を受けてください。

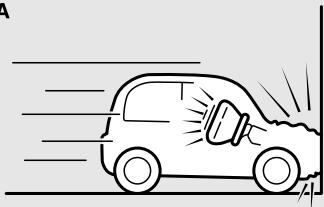
運転席 SRS エアバッグシステム、助手席 SRS エアバッグシステムの作動条件

J00506901618

作動するとき

乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときに作動します。

A



B



AAE003240

A- 約 25km/h 以上の速度でコンクリートのような固い壁に正面から衝突したとき

B- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃（A と同等）を受けたとき

アドバイス

- コンクリートのような固い壁でなく、衝撃を吸収できるもの（車やガードレールのように変形、移動するもの）に衝突した場合は、SRS エアバッグが作動するときの衝突速度（車速）は高くなります。

作動しないことがあるとき

衝突により車両前部が大きく変形しても、衝突した位置や角度、衝突したもののが形状や状態などによって SRS エアバッグは作動しないことがあります。車両の変形や損傷の大きさと SRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

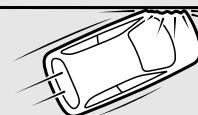
A



B



C



AAE003253

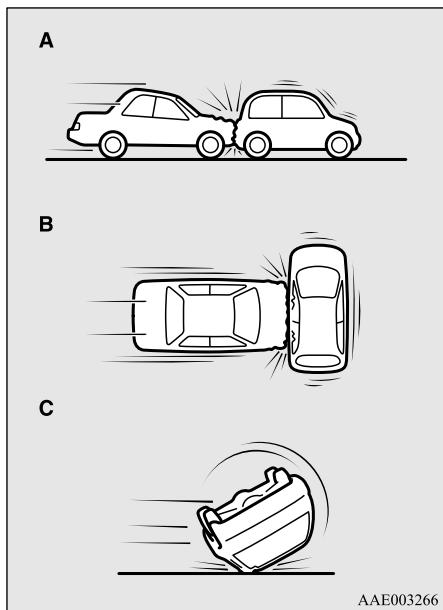
A- 電柱や立木など狭い範囲に衝突したとき

B- トラックなどの荷台へ潜り込んだとき

C- 斜め前方から衝突したとき

作動しないとき

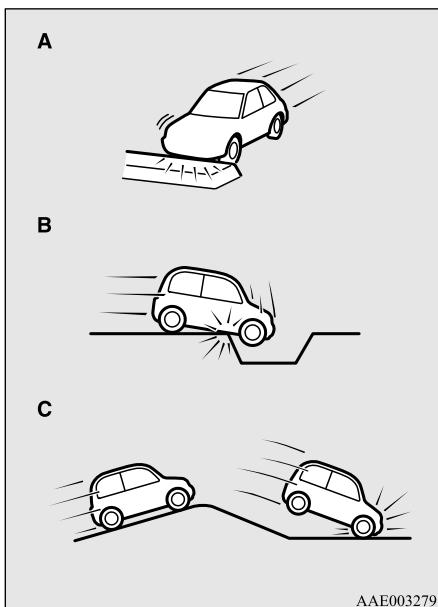
3 SRS エアバッグが膨らんでも乗員保護の効果がないため作動しません。
また、一度作動した SRS エアバッグは、2 回目以降の衝突では再作動しません。



- A- 追突されたとき
- B- 側面から衝突されたとき
- C- 横転、転覆したとき

作動することがあるとき

走行中、車両下部に強い衝撃を受けたときに作動することがあります。



- A- 中央分離帯や縁石などに衝突したとき
- B- 深い穴や溝に落ちたとき
- C- ジャンプして地面にぶつかったとき

取り扱い上の注意

J00507401841

⚠️ 警告

- ハンドル周り、インストルメントパネル、フロアコンソール付近の修理、カーオーディオなどの取り付け、および車両前部の修理をする場合は、SRS エアバッグに影響をおよぼしたり、SRS エアバッグが思いがけなく作動しけがをするおそれがありますので、販売会社へご相談ください。
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
- ステアリングパッドやインストルメントパネル上部などSRSエアバッグ展開部を強くたたくなど、過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠️ 注意

- 廃車するときは販売会社へご相談ください。SRS エアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。
- 電気テスターを使って、SRS エアバッグの回路診断はしないでください。SRS エアバッグの誤作動につながるおそれがあります。

△注意

- 無線機の電波などは、SRS エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、販売会社にご相談ください。

イベントデータレコーダー(EDR)について

J00512601085

本車両は、SRS エアバッグシステムを制御するためのコンピューターを搭載しています。

当該コンピューターは、当システムが正常に作動しているかどうかを常に診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときにおいて車両の速度やブレーキペダルの状態などのデータを記録・蓄積する EDR を備えています。

EDR は、一般的なデータレコーダーとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、EDR に記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的として取得・利用することができます。

なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータをつぎの場合を除き、第三者へ提示することはできません。

- 車両の該当データ記録時の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

